

風車

紀州の歴史と文化の風

埋蔵文化財と文化財建造物の情報誌

文化財センター季刊情報誌

【かぞぐるま】

2011秋号

56

財団法人 和歌山県文化財センター

特集 大古Ⅱ遺跡の発掘調査

連載

文化財建造物課短信

文化財の散歩道

「和歌山文化財百景」

きのくに歴史小話

「建築彫刻の話」

「発掘屋余話」

大古Ⅱ遺跡の発掘調査

大古Ⅱ遺跡は、白浜町の日置川河口より約2km遡った右岸の自然堤防上に位置し、現状は水田や宅地として利用されています。過去に弥生土器などが採集され、弥生時代の集落が展開すると推定されていました。

遺跡に近接して縄文時代中期・後期の土器が出土した大古Ⅰ遺跡、最古の紀年名をもつ備前焼甕が出土した長寿寺があります。また、対岸には中世の頃、水軍として活躍した安宅氏の居城である八幡山城跡や、館跡である安宅本城跡が所在します。

発掘調査は近畿自動車道紀勢線の建設に伴うもので、今回、対岸の安宅本城跡とともに平成23年6～9月にかけて調査を実施しました。大古Ⅱ遺跡は4箇所（橋脚部）を対象で、調査面積は1,134㎡です。調査区周辺は、長寿寺が位置する丘陵から南北に細長く微高地（自然堤防）が延び、各調査区の立地は、調査区4が微高地の稜線付

近を占めます。調査区1・2は調査区4付近より約30cm低く、後背地となります。段差は調査区2東側の道路に沿うように延びており、微高地から後背地への変換点を微地形に読み取ることができます。また、調査区5では微高地から日置川に向かって下る地形となつていきます。

調査した遺構面は調査区1・2・5が2面、調査区4が3面で、第1遺構面が古代以降、第2・3遺構面が弥生時代に帰属すると考えられます。検出した遺構には、弥生時代の土坑群、古代と考えられる掘立柱建物、室町時代の井戸などがあります。

弥生時代の土坑群は調査区4で検出しました。土坑の形状は不整形円形や楕円形で、約50基確認しています。規模は長さ・幅が0.5～3.0m、深さ20～70cmと様々で、弥生時代中期の土器や石器（石鏃・スクレイパー・磨製石斧・礫石器）などが出土しています。規模



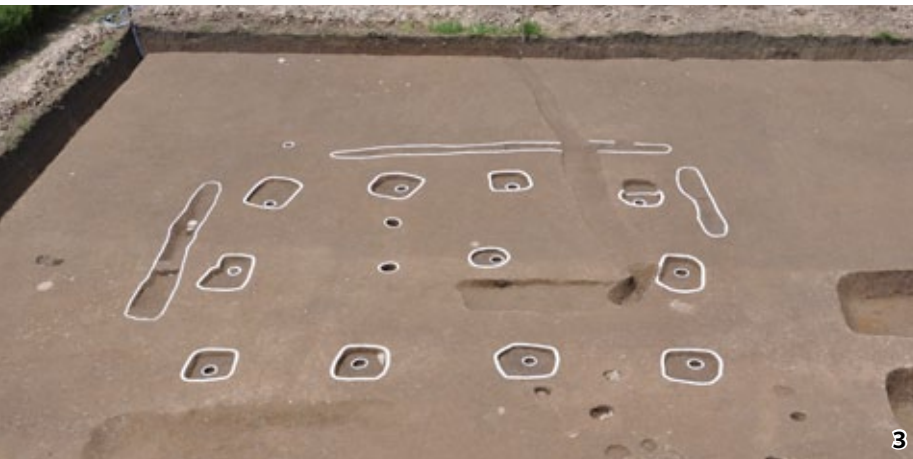
調査位置図 S=1:5,000



遺跡位置図 S=1:15,000



1: 調査区近景 南から 2: 調査区遠景 南東から



3: 調査区4第1面(古代以降) 掘立柱建物 4: 調査区4第2面(弥生時代) 5: 弥生時代の土坑 6: 弥生時代の集石



調査区5 室町時代の石積み井戸



調査区5 上から

が大きな土坑は下層付近に炭の堆積があり、その多くからは骨片が出土します。また、特徴的な遺構としては、台石などの礫石器を埋めた土坑が3基見つかっています。石器の組成では、調理具に分類される台石・敲石^{たたきいし}などの礫石器や動物の解体などにも使うスクレイパーが多いこと、炭に混じって骨片が多く出土していることから、付近で動物の解体や調理を集中的におこなっていた可能性もあります。また、土器には縄文を施した東日本の土器や紀ノ川周辺の土器が多く、広範な地域と

交流していたことが窺えます。

掘立柱建物は調査区4で検出しました。基本的には3間(6m)×2間(4.2m)の側柱建物ですが、建物内に補助的な柱穴が3箇所確認でき、建物の北・西・東の3方には幅30〜50cmの浅い溝が存在します。柱の掘形^{ほりかた}は方形または長方形で、規模は長さ・幅が60〜90cmを測ります。柱の直径は、痕跡から20cm弱で、掘形の大きさに比べやや細いと言えます。柱穴の中からは弥生土器片しか出土していませんが、掘形の形状や規模、それに規則正しく配置されていることから古代に帰属する建物であると考えられます。

井戸は調査区5で検出しました。川原石を小口^{こぐち}積みした円形の石積み井戸で、上部は破壊されていました。内法は直径1.2mで、深さは2m以上あります。井戸内からは青磁^{せいじ}、備前焼^{びぜんやき}、常滑焼^{とこなめやき}、瓦質^{がしつ}土器が、裏込めからは青磁が出土しています。出土遺物から室町時代にもと考えられ、備前焼の流通にかかわったとされる安宅氏との関連も注目されるようです。(川崎 雅史)

長保寺文化財建造物の保存修理

海南省下津町にある長保寺では、国宝の大門・多宝塔と重要文化財の鎮守堂の保存修理工事を行っています。工事は3棟とも屋根葺替修理を中心に、大門では軒廻りの高さ調整や小屋組の補強、多宝塔では相輪の修理を行います。現在は予定の解体を終え、順次各部の修理を進めています。

大門は、柱間3間、屋根が入母屋造、本瓦葺の楼門で、嘉慶二年（一三八八）の建立です。軒の出は約3メートルと大きく、その深い軒を支えるために地垂木は建物の内側まで延ばされており、中世の建物の特徴を今に伝えていきます。明治四四年（一九一）に解体修理され、以来百年の間にも3度の小修理を重ねて来ました。経年による雨水の浸透により、瓦がその下の葺土ごと滑り出した箇所も見られるなど、屋根面の破損が目立っていました。また、小屋組内には枯木と呼ばれる構造材を入れて軒の荷重を支えて

いますが、その効果は十分とは言えず、修理前の軒先は随分と乱れていました。今回の修理では、瓦の葺土に代えて木製の下地とする「空葺工法」を採用して屋根荷重を軽減し、構造材の機能改善を目指した補強を行います。

多宝塔は、下層平面が3間四方、本瓦葺屋根の建物で、心柱の墨書より正平十二年（一三五七）の建立になります。昭和二年から三年にかけて鎮守堂（鎌

倉後期、一間社流造、椴皮葺）と共に解体修理されています。下層背面において屋根瓦の乱れと軒先部分で木部の腐朽が見られるほか、鑄鉄製の



大門屋根瓦の解体状況

丸瓦解体中の様子。軒先を除いて瓦下の葺土は概ね百年前のままで、土の厚みは10センチメートルもありました。



多宝塔屋根瓦の解体状況

下層背面での屋根瓦解体中の様子。昭和3年以降も小修理が行われて来たことが、葺土の違いからうかがえます。

相輪の破損も目立ちました。本来は「九輪」ある宝輪の最上部が欠失して現状は「八輪」となっています。この破損はおそらく昭和三六年の第二室戸台風での被害によるものと考えられます。

今回修理する建物は過去に文化財修理を受けています。当時の修理のあり方を探る機会でもあり、工事と並行してそれらの調査も行っています。竣工は来年9月の予定です。（下津 健太郎）

和歌山文化財百景

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をはじめ、歴史的な文化財の宝庫である和歌山は、地中に埋もれた遺跡からも時に研究者を驚かせるような発見があるワンダーランドです。そんな和歌山の様々な表情をみなさんにお伝えしたく、このコラムでは、当センターが過去20余年にわたりおこなってきた埋蔵文化財と文化財建造物の調査の成果を紹介していきます。

かつらぎ町中飯降遺跡 — 縄文時代の巨大な建物について —

紀北の伊都郡かつらぎ町の紀ノ川北岸にある中飯降遺跡について紹介します。中飯降遺跡では、2008～2009年に発掘調査をおこない、縄文時代後期前葉（約4,000年前）を中心とする遺構が発見されました。なかでも、直径14～16mもの巨大な^{たてあな}堅穴住居（大型堅穴建物）が複数棟みつかり、西日本ではほかにみられない特殊な集落であったことがわかりました。

大型堅穴建物が廃絶したあと埋まった土からは、多くの土器の破片が出土しました。使えなくなった土器を集めておく特別な場所になったのかもしれませんが。これらの土器から、集落が存続した時期や、他の地域との交流などが読み取れます。

生活の道具として石器も多く出土しています。石^{せきぞく}鏃（狩猟につかう弓矢の^{やじり}鏃）、石^{せきすい}錘（漁労につかう網の^{おもり}錘）、磨石・^{すりいし}敲石・^{たたきいし}凹石・^{ぼみいし}石皿（堅果類を砕いてつぶしたりする道具）、^{いしざら}削器（切ったり削ったりする刃器）、^{だせいせきふ}打製石斧（土を掘削する^{くわ}鍬の刃先）、^{ませいせきふ}磨製石斧（木を切る斧の刃先）などがあります。石材は地元でとれる^{さがん}砂岩や^{へんがん}片岩のほかに、二上山産のサヌカイト、金剛山産の^{かこうがん}花崗岩、和泉山脈南麓産の^{りゅうもんがん}泉南流紋岩などがあり、近隣の地域との交流が盛んであったようです。ほかに生活用品として多くの木器や皮革、骨角器が使われたと思いますが、腐朽しやすいため残念ながら残っていませんでした。

縄文時代の大形の建物については、縄文時代前期から中期にかけて、東北から北陸、北関東地方に分布していますが、後期に入る前に消滅してしまいます。中飯降遺跡の建物は、これらの例と比べても、構造的にも時期的にも地域的にも大きく異なり、突然、和歌山の地に出現したような印象があります。どのような系譜をもち、どのような性格の建物であったか、それを知る手がかりは多くありませんが、何らかの大きな社会変化があったのかもしれませんが。（富永 里菜）



中飯降遺跡 縄文時代の大型堅穴建物（南半分）

建築彫刻の話 ⑭

かつらぎ町にある丹生都比売神社の臺股の彫刻を紹介いたします。これは正徳五年（一七一五）に再建された第一殿の西側面にあります。

雲間に見え隠れするように、向かい合った二匹の魚とその中央に鈴と上に向けています。顔はよく見ると虎か龍のように見えます。これは魚ではなく、想像上の霊獣「鯨」のようです。鯨は体が「魚」、頭が「虎」或いは龍で、尾鰭は天を向き、背中に鋭いトゲを持つとされています。この彫刻では頭の上に鋭い剣のようなものがありますが、トゲを表しているのかも知れません。



丹生都比売神社第一殿の臺又彫刻

向かい合う鯨が顔の上
に押し頂いているのは、
「金剛鈴」と呼ばれる密教の
法具のように見えます。金
剛鈴は振ると妙なる音を発
します。その妙音は仏を歓
喜させ、諸人の仏心を目覚
めさせるとされています。
この彫刻の中心主題は金
剛鈴で、それを鯨が守って
いる、と見えるのですが、
その図像の真の意味は無知
の雲に覆われて解明できま
せん。全国的に見ても希有
の建築彫刻です。

（鳴海 祥博）

発掘屋余話 ⑭

プラントオパール

すっかり刈入れの終わった稲田の景色がひろがる季節になってきました。晩秋の風情ある風景ですね。

ところで、発掘の世界でも水田を調査の対象とすることがあります。たとえばもういふん前のことですが、青森県の二つの遺跡、弘前市の砂沢遺跡と田舎館村の垂柳遺跡で見つかった水田跡は弥生時代前期末と中期のものであることがわかりました。

稲作が東北地方、それも最北端の青森に達するのはかなり新しい時代になってからと思われる中で、いきなり津軽平野にこの時期の水田が出現したわけですから常識をくつがえす大発見といつていいでしょう。

それにしても水田跡の発掘調査はむずかしいですね。畦の痕跡が残っている場合は、一区画の規模もわかるし、ときによっては農作業をした人の足跡や牛の蹄の跡さえ見つかるとあります。ただ、一般的にはわかりづらく、水田か否かの確証を得ることがなかなかできません。

そういうとき威力を発揮するのが土壌分析によるプラントオパールの検出です。一言で言えば、プラントオパールというのはイネ科植物の細胞に含まれる微小細片のこと。この物質はガラス質で非常に固く、ほかの部分腐朽しても長く地中に残ります。（ちなみに木槌で稲藁を叩いているのは、このガラス質を砕き柔らかくしているわけですね。）ですから水田と思われる箇所の土壌を採取分析してこの数値が異常に高ければ水田の可能性が高いといえるわけで、われわれもよくこの手を使います。なんとか状況証拠だけでも得ようという担当者の最期の手段、必死の思いですね。こういうのを「藁をもつかむ思い」と言います。

（村田 弘）

催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報

(公財)和歌山県文化財センター <http://www.wabunse.or.jp/>

○歩いて知る きのくに歴史探訪

日 時：平成 23 年 10 月 30 日（日）午後 1 時～午後 3 時 30 分

内 容：埋蔵文化財・建造物の専門家による解説を聞きながら、かつらぎ町丹生都比売神社周辺を歩きます。

県立紀伊風土記の丘 <http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>

○風土記の丘開館 40 周年記念特別展「大王の埴輪・紀氏の埴輪～今城塚と岩橋千塚～」

期 間：平成 23 年 10 月 8 日（土）～ 12 月 11 日（日）

内 容：6 世紀前半の大王墓 今城塚古墳と、紀氏の首長墓 大日山 35 号墳、井辺八幡山古墳、大谷山 22 号墳から出土した埴輪を展示し、古墳祭祀の展開や中央政権と地域の関係などを読み解いていきます。

○「大王の埴輪・紀氏の埴輪～今城塚と岩橋千塚～」 特別展記念シンポジウム

日 時：平成 23 年 11 月 26 日（土）午前 10 時～午後 3 時

和歌山県立博物館 <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/>

○特別展「中世の村をあるく—紀美野町の歴史と文化—」

期 間：平成 23 年 10 月 22 日（土）～ 12 月 4 日（日）

内 容：平安～室町時代の紀美野町には、東に神野・真国荘、西に野上荘という大きな荘園がありました。絵図や古文書、仏像や八幡信仰に関する遺品を手がかりにして、中世の村の世界へと誘います。

和歌山市立博物館 <http://www.wakayama-city-museum.com/>

○秋季特別展「祇園南海とその時代」

期 間：平成 23 年 10 月 22 日（土）～ 11 月 27 日（日）

内 容：祇園南海は、江戸時代中期の紀州藩の儒者で日本の文人画の先駆者でした。その作品と関係資料から足跡をたどります。

高野山霊宝館 <http://www.reihokan.or.jp/>

○秋期企画展「弘法大師と密教儀礼」

期 間：平成 23 年 10 月 1 日（土）～ 12 月 18 日（日）

内 容：弘法大師空海は、古くから様々な姿で描かれ、信仰の対象となってきました。また、平安～鎌倉時代の密教図像や、灌頂などの儀礼に用いられた密教法具、さらには密教経典・絵画の数々を展示、密教美術の世界をわかりやすくご紹介します。

(公財)和歌山県文化財センター現場事務所等一覧

【埋蔵文化財課分室】

◎和歌山市新在家 61 番地-4
TEL 073-472-3710

◎和歌山市土佐町 2 丁目 58-3
TEL 073-427-6174

【文化財建造物修理事務所】

◎金剛三昧院保存修理事務所
伊都郡高野町高野山 425
TEL 0736-56-5578

◎長保寺保存修理事務所
海南市下津町上 685
TEL 073-492-3260

| | |
|---|---------------------------------|
| 8 | 催し物案内 |
| 7 | きのくに歴史小話 「建築彫刻の話」 「発掘屋余話」 |
| 6 | 「和歌山文化財百景」 |
| 5 | 文化財建造物課 短信 連載コラム 文化財の散歩道 |
| 2 | 特集 「大古Ⅱ遺跡の発掘調査」 |
| 1 | 表紙 大古Ⅱ遺跡 |

風車 56 (2011 秋号)

平成 23 年 10 月 17 日発行

(公財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊 571-1

TEL 073-433-3843

FAX 073-425-4595

Email maizou-1@wabunse.or.jp

URL <http://www.wabunse.or.jp>